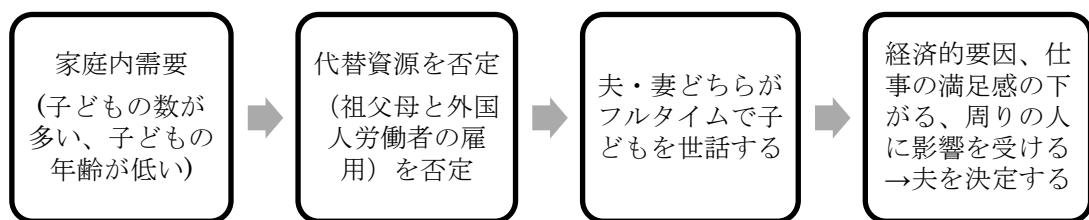




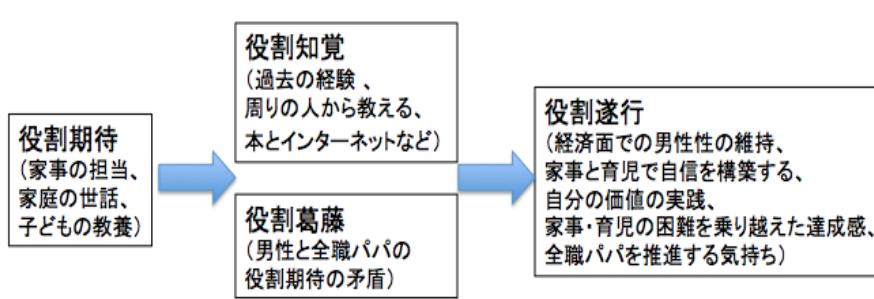
## 全職パパの家庭特徴

1. 核家族
2. 世帯収入が高い
3. 持ち家を持っている家庭が多い
4. 全職パパ家庭の子どもの数が多い、年齢が低い

## ②全職パパになる経緯



## ③全職パパの役割取得の過程



## 五、まとめ-社会変化の産物である全職パパ

今回の調査の発見である男性が全職パパになる経緯に、子どもの誕生をきっかけで夫婦が自分たちの手で子どもを育つことを決意した。しかし、夫婦間が性別役割分業の配分する際に、経済的の考慮の影響力はかなり大きい。つまり、妻の収入の方が高い場合は、妻が主の稼ぎ手の責任を担って、夫が家事を育児のことを担当することになる。それに、就労形態の高度的な自由度は全職パパを促す環境の要素の一つと考えられる。調査の対象者がほとんどフリーランスに就いている。フリーランスの特徴はバイトよりも時間と場所を選択権利が多く、時間的余裕の時に自宅でもできること。このようなフリーランスの収入で一部の家計を支えることを通じて、男性性を維持することができる。さらに、現在の香港では全職パパに対する態度は非常に開放的と言えないが、メディアが発信を通じて、社会が全職パパへの認識も少しずつ増やせると考えられる。性別役割は社会の変化に沿って変わって行くもので、現代香港における全職パパは単に家事と育児の役割を担うだけでは

なく、彼らは「家事と育児・ワーク・ライフ・バランス」というライフスタイルを提示している。積極的に男女平等を向かっている香港では、伝統的な性別役割とジェンダーステレオタイプを突破して、男性と女性との性別役割を柔軟的に交替できる家族が増えるようになるだろう。